

学校運営協議会 活動報告書（第2学期）

学校名 芦屋市立岩園小学校

校長名 横田 薫

開催日 令和7年11月13日（木）

出席者 運営委員9名（定数11名）校長・教頭

1 今回の協議会での主な内容（議題・承認事項・協議事項など）

- ・ 学校長より「学校運営協議会」について再確認。
- ・ 子どもの学力について 自分で決めることが苦手な児童が多い中、どういった力をつけていくのか。
- ・ 全国学力・学習状況調査結果について 本校の児童の実態説明
- ・ 一斉授業からの転換 児童が主体的に学べる環境づくり、授業づくり
- ・ 子どもに学びを委ねていく。1学期に1単元を計画している。
- ・ 基礎の学習は今までの学習と同じようにしている。一斉授業で学ぶことも大切。
- ・ 新たな課題を自分で見つけて取り組んでいる。環境を整えることが大事。今後の課題。
- ・ 児童が主体的に学ぶ場を増やす。子ども同士の学びを教師が繋げていく。
- ・ 学習の場だけでなく、学校生活の中でも、自分たちで決めたり解決したりする場も大切だと教職員で認識している。
- ・ 児童発信で進んでいる活動が増えている。児童の活動に教職員も積極的に参加している。
- ・ 「学力学習状況調査」本校の数値の説明。数値的に「良好」である。調査内容も、知識だけでなく意欲などの評価もでる。
- ・ 6年生対象だが、昨年よりも数値は上がってきている。全国平均と比較。

2 委員から出された主な意見や感想

- ・ 「昔は鼓笛隊があって、ミニスカートでやっていた。いつから無くなったのか？」
- ・ 「子どもの時は5.6年必修だった。」 当時は土曜も学校があった。
- ・ クラブの地域移行や働き方改革で、変わってきている。中学校の部活も地域移行していく。一つだけ特化した活動もなかなか持続しないので、情報発信することが大事。
- ・ 昔は、先生方の発表や特定のグループの発表もあった。音楽発表会も学習の延長として発表している。
- ・ プログラムに今年からは校長の挨拶文は載せてない。そういう意図が保護者に伝わらない。
- ・ 行事が学習の延長ではなく、イベントになっている。イベントの参加は良いが、普段の懇談会などの参加は少ない。保護者として、学校に何を求めてらっしゃるのかと思う。
- ・ 子どもも習い事に忙しい。子どもが自己決定する時間と環境が必要。その場を習い事とかに委託しているように感じる。家で勉強できないという状況ももったいないと思う。
- ・ 保護者と学校が両輪になって育ててほしい。

3 協議内容を受けての学校の今後の取組

- ・ 今までの実態を踏まえて、主要教科の授業時間を短くして子どもたちが自ら学べる時間や教員が放課後に余裕のある時間を捻出する方法も考えている。先生は、全く休憩がない状態である。
- ・ 目黒区の学校を参考にして、子どもに委ねる時間を増やしていく。教師の休憩時間も確保する。教育課程を小手先でやってきたので、大きな改革が必要になってくる。

- ・改革に保護者の反対の声も出てくるだろうが、現状をしっかりと伝えていく。
- ・登校時刻についても、原則 8 時 15 分だが、家庭の事情も鑑みて 8 時 10 分からにしている。文部科学省の標準時数からすると、本校も足りているので、減らすことも必要。
- ・学校は、学びのプロセスや非認知能力を育成することも大切な役割。
- ・保護者の方の学校サポーターに、地域の方も参加してほしい。年配の先輩方にも参加してほしい。ボランティアのあり方の課題も解決しながら進めていきたい。

4 当日の会議の様子

